

## (交遊抄) いちずな同志 森信茂樹 (日経電子版より引用)

2011/11/17 付 日本経済新聞 朝刊

私が財務省を辞める直前の2006年夏、オフィスに日本経済団体連合会の経済基盤本部長を務める旧知の阿部泰久さんが、かっぶくのいい姿を現した。「一緒に税制の研究機関をつくりませんか」といい、場所も資金も手当てできそうだという。私も日本にはない税制専門の民間シンクタンクをつくりたいと思っていたところで、渡りに船と飛びついた。

結局、集まった資金は当初のイメージに遠く及ばず、申し出は大風呂敷となった。でも税の専門家である阿部さんは、税制をより良くしたいという思いが人一倍強い。会計からコピーまで何でも献身的に動いてくれたおかげで、ジャパン・タックス・インスティテュートができた。

もう一人の立役者が、一橋大学教授の田近栄治さんだ。飾り気のない人柄で、年が近く考え方も似ていて気が合った。田近さんはベトナムの税制整備支援で、何度も現地に足を運ぶほどのめり込んでいた。そんな姿勢に共感し、理事就任をお願いした。

小さなシンクタンクは勉強会を120回以上も重ね、年1回は提言を出すなど着実に認知度を上げており、今後は中国の税制支援も考えている。いちずな思いを持つ2人の同志がいるからこそその成果だ。(もりのぶ・しげき = 中央大学法科大学院教授)